

籠甲細工

長崎の籠甲細工の技量の高さが最大限に発揮された一点。江戸時代から明治期にかけて生みだされた鉄製自在細工物と同様の発想を籠甲材で実現した作で、海老の体部各所を実物さながらに、自由に動かすことができる。

12 作者不詳

《伊勢えび置物》

制作・昭和25年（一九五〇）頃

籠甲細工

D35.5×W51.0×H43.0

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

細工・置物・つくりもの―自然と造型

三の丸尚蔵館特別展図録 No. 29

編集 集・宮内庁三の丸尚蔵館

製作 株式会社 便利堂

デザイン アイソーアソシエイツ 金子英之

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成十四年七月六日発行

Ornamental Artifacts—Nature and Its Imitations
Sannomarru Shōzōkan Exhibition Catalogue No.29

Edited by Museum of the Imperial Collections, Tokyo
(Sannomaru Shōzōkan)

Printed by Benrido Co., Ltd., Japan

Designed by Hideyuki Kaneko & i2 design associates

Translated by Hiroko Yokomizo

Published by Imperial Household Agency, Japan

Issued on July 6, 2002

Copyright ©2002, Museum of the Imperial Collections, Tokyo